

平成 23 年度 第 4 回佐鳴湖ワーキンググループ会議 議事要旨

日 時： 平成 23 年 12 月 23 日 (金)

9 : 30 ~ 12 : 00

場 所： 佐鳴湖公園北岸管理棟

出席者： グループメンバー 13 名
事務局 9 名

1 開会

● あいさつ (司会進行：事務局)

- ・ ワーキングの前に、これまでの流れと今後の予定を確認する。お手元の資料 1 に、これまでの流れと今後の予定についてまとめている。今回までのワーキンググループでの検討をまとめたものを、1 月開催予定の地域協議会に報告する。その後、地域協議会の幹事会で詳細を詰め、専門委員会の意見も聞いて、地域で行っていく対策については引き続きワーキンググループで協議していく予定である。今回の会議で一つの区切りとなる。

【意見・質問】

- ・ これで終わりということではなく、進捗状況や今後の展開について、少なくともワーキンググループの参加者には知らせていただきたい。(メンバー)
- ・ ご提案のとおり、地域協議会の意見等を報告させていただく。(事務局)

2 自己紹介

● 各自、一言ずつ自己紹介 (初参加者)

3 第 3 回ワーキンググループ会議の振り返り (事務局)

- 資料 2、資料 3 により、第 3 回ワーキンググループ会議の振り返りを行った。

4 水質改善のためのシミュレーション結果の報告 (事務局)

- 佐鳴湖感謝祭および感謝祭で実施したアンケート結果の報告
- せせらぎ水路完成の報告
- 水質改善のシミュレーションでは、COD の値を環境基準値の 5 mg/l にする場合、点源系の負荷をゼロにし、面源系の負荷を 40% 下げる必要があるという結果が出ている。これは、市街地の土地利用を森林に変えた場合、現在佐鳴湖の流域に約 70% ある市街地を 25% まで減らす必要があるという結果になり、面源系負荷を減らすことは非常に難しいことを示している。しかし、少しでも改善するために流域一体となって努力していきたい。

【意見・質問】

- ・ COD の元データは、年間通して測ったデータか。(メンバー)
- ・ 毎月測っているデータをもとにしている。(事務局)
- ・ 水質改善の努力が目に見えている。しかし、工業は景気により稼働が上下するので、逆に下がり方がきれいすぎないか。(メンバー)
- ・ おっしゃる通り、工場の稼働により多少上下すると思うが、棒グラフはあくまでも土地利用と下水の整備や接続を加味したシミュレーションの結果であり、折れ線グラフは実際の COD の計測値である。(事務局)
- ・ 面源系負荷について、もう一度説明をお願いしたい。(メンバー)

- ・ 面源負荷とは、市街地や農地などの面的な広がりをもった汚れの発生源からの負荷である。(事務局)
- ・ 面源負荷対策が難しいのであれば、子供たちが泳げる佐鳴湖にするためには、佐鳴湖の水を濾過することが必要か。(メンバー)
- ・ 佐鳴湖の水をすべて濾過するためには、直接浄化施設を何十機も設置する必要がある。すぐに根本的な解決をするのは難しいと思うが、皆で長期的に取り組み、面源系負荷を減らすことは可能であると考えている。(事務局)
- ・ シジミを湖岸の10%に生息させると、私の計算では15日で佐鳴湖の水が濾過される。また、湧水を増やすため、雨水浸透マスの取り組みを行っていかねばならない。(メンバー)
- ・ 取り組みについては、この後のワーキングでもご意見をいただきたい。(事務局)
- ・ 川からの流入量や滞留日数は、現在の値でシミュレーションしているか。(メンバー)
- ・ 現在の値である。(事務局)
- ・ 水域の滞留日数を減らすとCODの低減やプランクトンの発生が押さえられることは、これまでのデータでわかってきている。流入量がどれくらいだとCODが低減されるかというシミュレーションはしているか。(メンバー)
- ・ 滞留日数を変えたシミュレーションは行っていない。(事務局)
- ・ 問題なのは、流入量が減ると滞留日数が増えて、プランクトンが増殖しやすい環境になるということである。家庭排水の流入が減ったことは良いことではあるが、佐鳴湖がきれいと言われた頃と比べると自然水の流入量は相当減っていると思う。それをどうやって増やし、滞留日数を減らすか検討しなければならない。また、12ヶ月の平均を取って佐鳴湖のCOD値とすることには疑問がある。雨が降ると急激にCODの値が上昇するのは、面源系負荷が大きいことを表している。今後は、より細かな水質調査結果から議論していきたい。(メンバー)
- ・ 遊休農地を活用すれば、面源系負荷は低減されるのではないか。また、市街地であっても、各家庭で植樹すれば効果があると思う。(メンバー)
- ・ 現在、シミュレーションに遊休農地については反映されていないと思われる。(事務局)
- ・ 遊休農地は10%ぐらいある。特に三方原台地は多い。(メンバー)
- ・ 参考にさせていただきたい。(事務局)

5 湧水に関する調査結果の報告 (発表者：メンバー)

- 森は、地下に水を浸透させ、大気を冷やす働きがある。人と森は水を奪い合う関係にある。安定同位体を使った分析を行うと、新川、御陣屋川は変化がないが、段子川は採水する度により大きく違いがあり、湧水が2/3、水道水が1/3程度と考えられる。メンバーから意見があったように、湧水の量が減ることにより、これが無視できなくなった。我々がやるべきことは、普段の水量をいかに増やすかである。今後は、段子川の湧水対策が必要である。より詳細な調査が必要であり、今後もこのような調査を行政や地域と共に行いたい。

【意見・質問】

- ・ 前回、段子川の流量が減ったのは、下水道の普及率が上がったからであるという話であったが、台地に企業が立地してから家庭の井戸水の量が減ったという話も聞く。どういう影響を与えているのか。企業が使用した水を積極的に段子川に返すしくみも必要ではないか。(メンバー)

- ・ 二層ぐらい地下水があって、企業は良質な水を使いたい場合は深井戸を掘って取水しているようである。(発表者)
- ・ 段子川は三面張りになっているのか。(メンバー)
- ・ 権現谷から上流は三面張りである。(発表者)
- ・ そこに穴を開けると湧水が出るのか。(メンバー)
- ・ エアコンを設置する時のように穴を開けて、確認するのが良い。(発表者)
- ・ どれくらいの深さから出てくるか、深さを変えると良い。(メンバー)
- ・ 三方原台地に降った雨が、伏流水として佐鳴湖に入るという話を昔聞いた。(メンバー)
- ・ その通りだが、現在集水域と考えられている区域の外から来ているかどうかはよくわかっていない。雨水浸透マスの設置を検討する際に重要になると思うが、今のままの区域で良いかどうかはまだわからない。(発表者)
- ・ 企業の井戸水利用状況は、条例で届け出のあったものについては毎年市で調査している。その報告を見ると、最近では企業が止めたり節水したりして取水量は減っている。井戸を掘って、地下水の水位も計測しているが、だんだん上がっている状況である。企業は、下水道料金が高いので、汚れた水は下水に流すが、冷却水のようなきれいな水は河川に流している状況である。(事務局)
- ・ 減ってきたという傾向は、いつ頃からか。(メンバー)
- ・ この数年ではなく、もう10年ぐらいになる。(事務局)

6 雨水浸透マスに関する報告 (発表者：メンバー)

- 小金井市の事例で重要なのは、現地をくまなく調べている、徹底的に指定地域を調べてある、技術基準がある、雨水浸透マスの設置を義務づける条例があることである。現在5万戸に設置されている。新川流域、段子川流域においても30〜50%ぐらいになれば、湧水量に変化があるのではないかと期待している。湧水の温度も下がるのではないかとと思われる。

【意見、質問】

- ・ 行政の対応についてはどうか。(メンバー)
- ・ 行政としての先駆者的な役割は終わった。佐鳴湖の環境を計る新たな基準をつくることも必要である。地下を知っている上下水道部にまかせるべきである。上下水道の申請の際に雨水浸透マスの設置を義務づけるということが必要である。報告書を作るよりも、やるべきことを議論しなければならない。一方、浜松市のセントラルパーク構想の資料もお配りした。先週、浜松城と周りだけでなく、西は佐鳴湖公園、南北は姫街道まで構想区域に入れていただきたいと要望した。さらに、自治会や住民代表が入っていないので、来月からこのような会を開催することになった。それぐらいのことを言わないといけない、市民協働の現状である。(発表者)
- ・ 雨水浸透マスは、補助金方式はだめである。カーポートにコンクリートを張ったら税金を掛けるが、雨水浸透マスを設置したら免除するとか、そういうやり方なら自動的に設置できる。あるいは固定資産税を安くするなど、設置する利点がないと広がらない。(メンバー)
- ・ 防災拠点は既に減税している。そのような方式でなければこれからはいけないと思う。(発表者)

7 ワークショップ ― 今後の佐鳴湖の考え方、今日の検討内容について ―

- 資料4により、今後の佐鳴湖の考え方について説明し、将来像について検討した。

【意見、質問】

- ・ ワークショップに入る前に少しお話させていただきたい。冒頭で今後の予定についてお話させていただいた。ワーキンググループでは貴重なご意見をいろいろいただいたが、当面の5ヵ年で何をすべきか、何ができるか、行政が実施主体となるものについては時間をいただいて、浜松市と県の関係部局で集まって検討していきたい。そして、その結果を再びワーキングに持ち帰りたいと考えている。一方で、地域でやっていただきたいことは、協働で行うことになるため、関係部局に持ち帰る話とは別に、併行して今後もワーキンググループで検討していきたい。実際に実行していくのは難しい事柄であると認識しているが、ワーキンググループについては継続して行いたいと考えている。(事務局)
- ・ 行政がやることを意識しないと、なかなか進まないの、よろしく願いたい。(メンバー)
- ・ 絵に描いた餅にはしたくないと考えている。確実にこれだけはやるということ、ワーキングにお示ししたい。(事務局)
- ・ ジェットストリーマーは突然湧いて出た話で、ルール違反だと思う。(メンバー)
- ・ このような会を立ち上げているので、事前の連絡はしておくべきであったと思う。(事務局)
- ・ この中に賛成した人はいないと思う。承認はしている。(メンバー)
- ・ 多様な生物という表現はどうかと思う。いろいろな生物がいればよいということではなく、佐鳴湖の生態系ということなので、郷土種による豊かな生態系というような表現が適切ではないか(メンバー)
- ・ 多様な生物という観点であれば、今の塩分濃度で、どこにどのような生物が生息するのか、季節変化を踏まえた絵を描かなければならない。そこで、そのためにどういうことをしていこうかということになる。そういった観点であればぜひ絵を描くべきである。どういう生物がいていいのか、また、いてはいけないのかを設定し、そこに外来種が含まれる。(メンバー)
- ・ 湖岸から湖へと断面図を描き、そこに生息する生物を表現することで、目標像を表現するということはある。(事務局)
- ・ 「みんなでつくる生命の源、佐鳴湖」はとてもいい言葉だと思う。佐鳴湖だけでなく、その周りもきちんとしていかないと、佐鳴湖が生きていけない。一方、周りの緑を壊そうとする動きもある。東の森でそのようなことがあると聞いているので、市で買い上げて管理するなど、周りも考えていただきたい。(メンバー)
- ・ そういったことは、「みんな」という言葉に表現している。(事務局)
- ・ 送っていただいた資料に、交通アクセス等という話があった。佐鳴湖に行くと、いつ何が出来るのか、一般市民は知りようがない。博物館を作るのが一番いいが、指導員や学芸員のような方が整理して一覧で確認できるようにしたい。佐鳴湖の自然に親しむ会が活動しているが、あのような活動がたくさんあって、佐鳴湖に行くとこういう活動が出来るなどの案内をできるとよい。(メンバー)
- ・ 基本的には将来像に賛成である。いままでの「よみがえれ佐鳴湖」は、面源負荷を考えるとなかなか難しい。また、自然の8割は、人間が関わっていかねばならない。このコンセプトの転換は、水質中心から総合的にいろんな問題が関わってくるということになる。そうすると、市にお願いだが、今まで通りの環境保全課が主体となった対応でいいかということがある。例えば、滋賀県には琵琶湖環境部という部がある。総合的な組織の立ち上げができないか、提

案させていただきたい。(メンバー)

- ・ 将来像は、今後皆さんの意識を共有する材料として使っていただきたい。(事務局)

● 資料5により、これまで検討した対策案について説明し、さらに検討した。

【意見、質問】

- ・ 5年後にすぐできる優先度の高いものとして、市街地の面源対策の地域の清掃活動の活発化があると思う。(メンバー)
- ・ 優先度は5年後などと言わず、全部やっていただきたい。そうでなければ、これまでと同じである。前回の検討結果から優先度をつけているが、全部やるためにこれだけの考え方や立場の人が集まっているので、優先順位をつけるのには反対である。これまでは非生物系で活動していたが、これからは生物系と非生物系が相まって、縦割りの横のつながりをつくって佐鳴湖を良くしていくということであれば、先が見えてしまう。(メンバー)
- ・ 佐鳴湖推進室のようなところを作っていくという話であると思う。(事務局)
- ・ そのとおりで、地域協議会でこれはやるがこれは後回しということは避けていただきたい。(メンバー)
- ・ 地域協議会で決めてしまうということはない。必ずワーキンググループに意見を戻すので、誤解のないようにお願いしたい。(事務局)
- ・ ワーキンググループで出た意見を削るようなかたちで協議会に諮ることはない。優先度というのは、どういう取り組みが強く望まれているかということである。もちろん全て必要なことであるが、その中で今後の話をするにあたって、ここが強く望まれているということである。(事務局)
- ・ 私はメリハリがある方がいいと思う。COD 8 mg/l 以下を夏場も目指すという点は、一步前進したと思う。透視度 60cm 以上は、今回目標が達成できなかったことなので、高い目標設定だと思う。私は以前 100cm と書いたが、60cm でもいいと思う。けれども、60cm であれば湖岸のどの程度の範囲をどれぐらい見ることができるのか、といった根拠をつけて目標を設定した方がいいと思う。そして、できればこれは優先度を高くしてほしい。(事務局)
- ・ これは透視度でなく、透明度の間違いである。(メンバー)
- ・ 庁内会議に持ち帰って検討することに、期待できるのか。佐鳴湖東岸の小藪に公園計画がある。公園緑地、緑政課から最近の情勢の説明があったが、次長はこの会の存在を知らなかった。そのレベルを直してもらわないといけない。まず前に行く仕組みを作らなければ、庁内会議の議論は成立しないし、変わらない。庁内会議にどの部署がどれくらい出席するのか、説明していただきたい。(メンバー)
- ・ それをやろうと言っているので、私は期待したい。(メンバー)
- ・ まさにおっしゃるとおりで、そこを解決していかないと佐鳴湖は良くならないということだと思う。(事務局)
- ・ 第1回の会議で、このワーキンググループの位置づけが答申するだけの組織のように思えたので質問したと思う。この会を今後継続するということであれば、ここから様々な方向へ発信することができる組織になっていく必要がある。あくまでもたたき台をつくるようになっている。それが今後どうなっていくかを教えていただいてから、どの部署がどれだけ出てくるのかという話になると思う。(メンバー)
- ・ 行政内部で頭を悩ませて解決策を考えていかなければならないということは

- 私もそう思う。今日は提示できないが、また改めてご報告させていただきたい。まだ至らないところはあると思うが、今後もよろしくお願ひしたい。(事務局)
- ・ 地域協議会には、行政も各自治会連合会も入っていて、基本的には合意をつくる場であると考えている。今までは「よみがえれ佐鳴湖」のスローガンのもと、行政主導で活動を行ってきた。これからは、どんな佐鳴湖にするかというところから地域に皆さんに関わっていただいてコンセプトを作っていくという流れの中でワーキンググループ会議が開催されている。これを協議会にあげて、きちんとしたスキームを作っていくには時間がかかると思うが、現在は地域の意見を入れた計画を作る過程の段階である。したがって、実際に計画を具体的に実施していく上では、行政の縦割りでは困難であり、総合的に対応できる行政の組織が必要であると考えている。(メンバー)
 - ・ 新たな課や部を作るというより、一人二役のような仕組みになるだろうが、ぜひお願ひしたい。また、その上位の地域協働ということを県や浜松市はどう考えるか、そして佐鳴湖をどう考えるか、そして地元は掃除をする、行政はこういうことをやる、といったことを明確にして、活動の理念を設定したい。(メンバー)
 - ・ 大きくまちづくりという視点でないとなりが運ばないことが見えてきたと思う。市の総合計画を策定する時のように、組織のかたちを考えていけばいいのではないかと思う。(事務局)
 - ・ ミシシippアカミミガメの駆除は優先度を高くしてほしい。餌をやっている人もいて、急がないと生態系が崩壊してしまう。(メンバー)
 - ・ 環境に合った水草の実験をまず行い、その後水草を植えるという優先度にした方がいい。湖岸に干潟を造成するのはシジミにとって良いことなので、優先度を高くし、市民や研究機関も実施に参加してほしい。(事務局)
 - ・ 湖沼の変遷を考えると、佐鳴湖は将来尾瀬沼のようになってしまう。湖底からヘドロを取って篩い分けし、ヘドロを固化するということは、将来に渡って研究していかなければならないと思う。(メンバー)
 - ・ エコファーマーの農産物を売るということはすぐできることだと思う。(メンバー)
 - ・ 感謝祭のように、定期的を開催するのが大事だと思う。(メンバー)
 - ・ 公園課等から販売の規制があるかもしれないため、調整して総合的にやらなくてはいけない。(メンバー)
 - ・ 周辺の緑地の開発をどう防ぐかということが大事である。(メンバー)
 - ・ 佐鳴湖博物館については、もう場所を決めてあるので、具体的に進めるのが良い。(メンバー)
 - ・ 構想をしっかりと教えていただきたい。(メンバー)
 - ・ 安全性の向上にユニバーサルデザインの導入を入れていただきたい。また、植栽する際には、高、中、低木を考えた樹木設計を考えないと、夜は防犯灯をつけても歩けない。(メンバー)
 - ・ 防犯灯があっても6時に消灯しているので、何のためにつけたかわからない。日の出にあわせて調節すればよい。(メンバー)
 - ・ 佐鳴湖八景などあるが、どこにあるのかが具体論でないとはまらない。(メンバー)
 - ・ 博物館は大賛成だが、佐鳴湖八景よりももっと昔の、佐鳴湖の成り立ち、地質的にどうなのかなど、研究や調査の結果を子供たちが見て、知ることができるようなものを設定する必要がある。(メンバー)

- ・ 国学者の説はあるが、佐鳴湖の名前がどういう由来なのかもわかっていない。(メンバー)
- ・ 湖岸の清掃グループをつくって活動を続けながら、意識を高めたい。(メンバー)
- ・ 清掃活動はかなり行われていて、関心が高い。(メンバー)
- ・ 毎日ビニールを持って佐鳴湖を掃除して周る方がいらっしゃる。そういう人が大切であると思う。(メンバー)
- ・ 優先度については今後どうなるのか。(メンバー)
- ・ 今後引き続き検討していく。(事務局)
- ・ この会は、平成 24 年度以降のスキームを考えるために作った組織であるが、先程事務局からあったように、恒常的な組織にしたいということに、私は賛成である。(メンバー)
- ・ この会は行政が主体となり、皆様に集まっていた会であるが、希望としては、これからは行政と皆様が一緒になっているような活動をしていきたいと考えている。もし、皆様がよろしければ、そういった活動をしていただければ佐鳴湖のためになると思う。行政による検討結果は、いつでもこの会にフィードバック可能であるし、優先度の話もまだまだ議論が足りない。さらに、個々の施策に対する目標や具体的な手法や内容等はまだほとんど議論できていない。そのため、皆さんがよろしければ、今後も会議を続けたい。(事務局)
- ・ 私は、フィードバックをぜひやってほしいと思う。(メンバー)
- ・ 3月4日の日曜日に、佐鳴湖についての交換会を大学で開催することを考えている。また、椎ノ木谷で自然講座を100夢プロジェクトで行う。ヒクイナの専門調査をされている方の講演と現地案内がある。1月14日の10時からで、水田と野鳥の関係について興味のある方はぜひご参加いただきたい。また、柳川掘割物語は予備知識として参考になると思うのでご紹介したい。(メンバー)
- ・ 今後の予定について確認したい。地域協議会に報告し、その後地域協議会の主なメンバーの幹事会に諮るということか。(メンバー)
- ・ 幹事会は、行政の組織である。次回開催する地域協議会は、平成 24 年度以降のスキームを議論する場ではない。あくまでもワーキンググループ会議での検討結果を紹介するということである。(メンバー)
- ・ 先程新しい組織の必要性といった話が出たが、幹事会は、新しい仕組みで考えていただきたい。活動を決めただけで終わらないようにしてほしい。(メンバー)
- ・ 行政側からは早く計画を策定したいという要請もあるが、地域の皆様の意見を聞かなければ、そう簡単に計画は策定できないということを伝えている。今後もお足労をおかけするが、よろしくお願ひしたい。(事務局)

以上

今後の佐鳴湖の考え方について

1. 佐鳴湖の将来像について

今後の行動計画では、きれいな水のある都市のオアシスという位置付けだけでなく、佐鳴湖で生まれる命や自然など、豊かな生態系を育む空間として地域に必要とされるよう、以下のように将来像を設定します。

湖面や湖岸から美しい景観や季節の変化を感じ、多様な生物や環境に触れる

「みんなで作る生命の源、佐鳴湖」

「生命の源」としての佐鳴湖とは、魚や貝などの佐鳴湖の中の命や、周辺から生み出される植物や虫、鳥といった様々な自然や生態系の源となる佐鳴湖、また、地域の人々が佐鳴湖を訪れることで、癒しや健康など、生きるための活力を得られる佐鳴湖を目標としています。

これからの水質浄化活動は、家庭や事業所といった特定の箇所からの汚れ（点源負荷）だけでなく、市街や山林、農地など、より広域的な範囲から出る汚れ（面源負荷）への対策に、より一層取り組んでいく必要があります。そのためには、佐鳴湖に関わる多様な主体が、佐鳴湖の価値を再認識し、エコ活動や保全活動など、佐鳴湖のためになる活動を行うことが必要です。

さらに、浄化活動をはじめとした、「地域の誇りとなる佐鳴湖づくり」に関わることで、佐鳴湖から生み出される資源などの恩恵を受け、それらが地域を循環して、再び佐鳴湖のための活動となっていくことが大切になります。



図 1. 佐鳴湖と地域の関わり（将来像）

2. 「生命の源、佐鳴湖」を構成する要素

生命の源としての佐鳴湖は、大きく分けて「自然的要素」と「文化的要素」で成り立っていると考えます。

自然的要素とは、佐鳴湖本体そのものだけでなく、周辺の水域や緑地といった、佐鳴湖に関わる自然を一体的に捉えた諸要素を位置付け、それらの目指す姿を考えます。

また、佐鳴湖は都市環境の中に位置しており、地域の活動が密接に関わるため、文化的要素として人の活動や地域の歴史文化を位置づけることで、流域に住む人々の活動や景観のあり方などを考えます。

さらに、地域の各種団体が佐鳴湖のために行う浄化活動や周辺整備なども佐鳴湖を構成する要素とすることで、「地域の活動でみんなが好きな（誇りとなる）佐鳴湖を作っていく」という考えを持ち、佐鳴湖を、浜松市のエコ活動の拠点として様々な活動のネットワークを広めることを目指します。

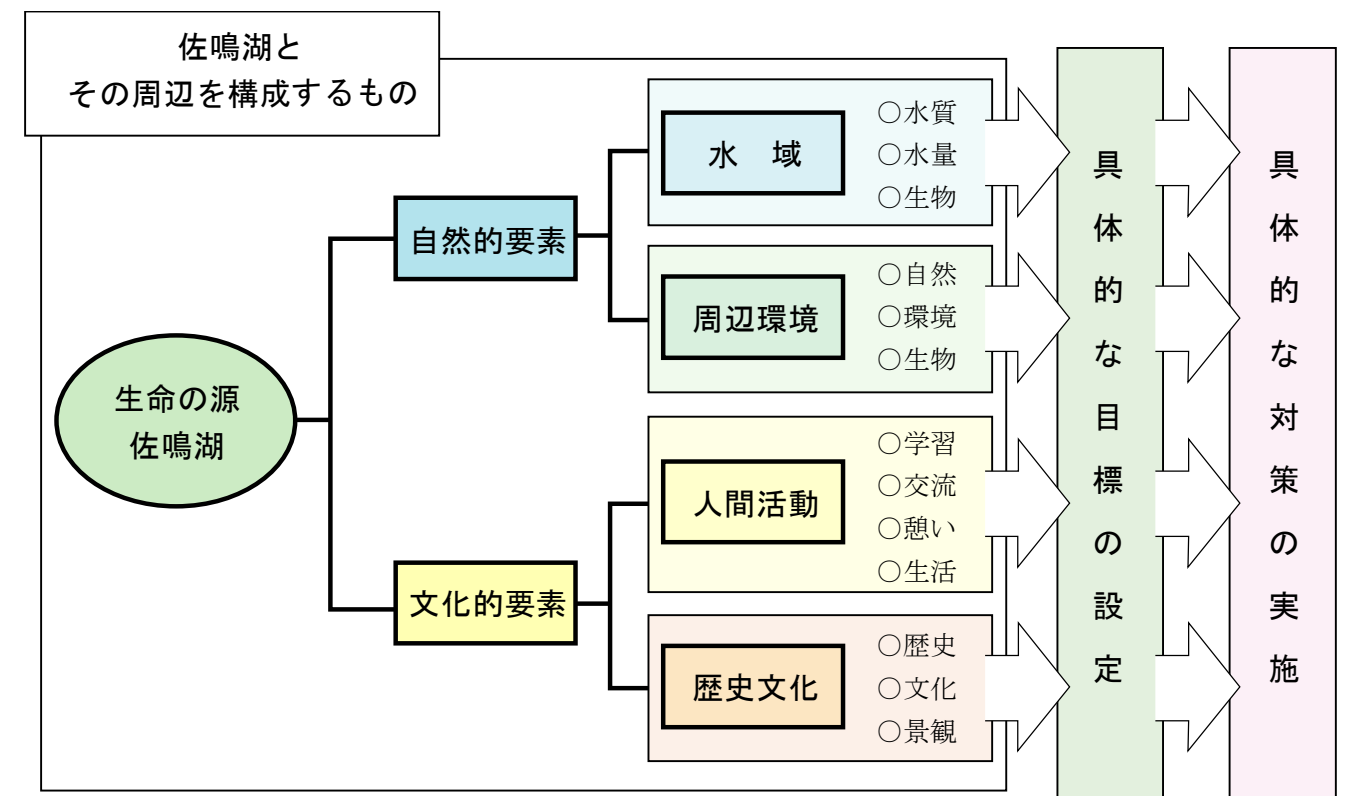


図 2. 佐鳴湖を構成する要素



実施対象	想定される効果 (目的)	対策		具体的な手法		目標	実施主体						優先度
		名称	内容	項目(対象等)	内容		市民	事業者	研究機関	地域協議会	浜松市	静岡県	
水域に関する事 水質	(点源負荷対策) 生活系、事業系のCOD、窒素、リンの負荷量削減	下水道整備	下水道の管渠整備	下水道整備計画の公表							●		◎
			下水道への接続	家屋(集合住宅)、事業所への接続			●	●		●	●		
			下水道接続への補助								●		
			下水道接続の啓発				●			●	●		
		合併浄化槽の整備	合併浄化槽の設置				●				●		◎
			合併浄化槽設置への補助								●		
			合併浄化槽設置の啓発				●			●	●		
		事業所での排水対策	排水処理の強化					●			●		
	各家庭での排水対策	環境に優しい排水の啓発				●			●	●			
	(面源負荷対策) 市街地、農地、緑地等からの負荷量削減	市街地での対策	地域の清掃活動の活発化	路面清掃、排水溝清掃				●				●	◎
		農地での対策	環境保全型農業の推進				●	●			●	●	
		面源負荷についての説明	面源負荷についての説明、活動の啓発				●			●	●		◎
	(直接浄化) 生活系、事業系のCOD、窒素、リンの負荷量削減、透明度の改善	直接浄化施設	浄化施設の活用									●	
			浄化施設の維持管理の市民参加				●			●		●	
		EM菌による処理	住民による処理実験				●						
			行政・専門機関による処理実験(検証)						●	●	●		
		その他水処理実験	水処理実験グループを作る				●		●	●	●		
	湖水の低温化	熱の回収利用	メガソーラー、ヒートポンプによる熱の回収利用						●				
	水質の監視	湖内の水質の監視	水質の監視 季節に応じた目標値の設定								●		◎
			透明度(透視度)の監視								●		◎
		河川の水質の監視	流入河川の水質の監視								●		

実施対象	想定される効果 (目的)		対策		具体的な手法		目標	実施主体						優先度		
			名称	内容	項目 (対象等)	内容		市民	事業者	研究機関	地域協議会	浜松市	静岡県			
水域に関すること	水質	情報の発信	市民への情報発信	水質に関する情報を市民にわかりやすく伝える				●			●	●				
			新指標水質調査への参加呼びかけ					●			●		●			
			水質目標達成のための手法	水質目標達成のためのシミュレーション結果を公表する								●				
			塩水化対策	新川に水門を設けた場合の効果を検証する。									●			
		指標の設定 (佐鳴湖を総合的に評価する指標)	佐鳴湖独自の指標の設定	新指標水質調査の継続					●			●		●		
				佐鳴湖独自の指標の設定								●				
	水量	湧水量の増加 (短期流出抑制)	雨水浸透ますの設置	雨水浸透ますの設置	雨水浸透ますの設置	設置の義務化 (とくに新築住宅)		●					●		◎	
				雨水浸透ます設置への補助										●		◎
			雨水貯留タンクの設置	雨水貯留タンクの設置	雨水貯留タンクの設置				●					●		
				雨水貯留タンク設置への補助										●		
			透水性舗装の推進	道路、駐車場を透水舗装にする						●				●		◎
			湧水池の整備	湧水池の整備	湧水池の整備	太刀洗池の復活		●						●		◎
		河川内の湧水対策	3面張りの川を2面張りにする (底を砂礫にする)	根川、段子川 (上流に拡大)										●	●	◎
			底面に穴を開け、湧水を自噴させる											●	●	◎
		流入水の増加	導水	天竜川の水を流入させる									●	●	●	
				(検討) 導水の問題点は何か整理する										●	●	●
	生物	生態系の保全	外来種の駆除	外来種の駆除	ミシシippアカミミガメの駆除	専門機関と駆除の仕組み作りをする		●					●		◎	
		生態系の復元	絶滅種の復元	絶滅種の復元	ヤマトシジミの再生			●		●			●		◎	
		生息環境の確保	湖内環境の整備	湖岸に干潟を造成する											●	◎
				へドロを除去し、なぎさと湖棚を造成する	御前谷排水路前に湖棚を造成する										●	◎
市民協働で湖内に水草を植える								●			●			●	◎	
		現在の環境に合った水草の試験							●				◎			

実施対象	想定される効果 (目的)		対策		具体的な手法		目標	実施主体						優先度		
			名称	内容	項目	内容		市民	事業者	研究機関	地域協議会	浜松市	静岡県			
周辺環境に関すること	自然	みどりの保護	緑地、樹木の保護	保全のための学習会を開催する				●					●			
				保全のためのルールづくりをする				●					●		◎	
				市民の森の適切な管理、流域全体に市民の森を広める				●					●			
				特別緑地保全地区や緑地保全地区を積極的に保全する									●		◎	
				樹木に名札をつけ、樹木公園にする				●					●			
		自然を感じる場の創出	景観の形成	一年中花が咲いている空間をつくる	春:桜、夏:ひまわり 秋:彼岸花、冬:水仙				●					●		
	花いっぱい運動などの推進					●					●					
	環境	維持管理活動	湖岸の維持管理	湖岸のヨシ刈り				●				●	●	●		
				湖岸の清掃活動	清掃グループをつくり、範囲を決めて管理する				●					●		◎
				清掃活動の補助	清掃用具の貸出し									●	●	
				管理棟にゴミ袋を設置し、ゴミを持ち帰ってもらう									●	●		
				リバーフレンドシップやアダプトプログラム等の制度を活用する					●					●	●	
		環境の創出	生息環境の創出	湖岸に干潟を造成する											●	
				植林活動を行う										●		◎
				ヘドロを堆肥化し植林等に活用する										●	●	
	物質の循環	資源の有効活用	刈ったヨシの再資源化、活用					●	●		●	●	●			
	生物	生態系の保全	外来種対策	市民のペットマナーの向上を図る(捨てない)					●					●		◎
			捨て猫対策	捨て猫を保護する場所を確保する(佐鳴湖から移す)					●					●	●	

実施対象	想定される効果 (目的)	対策		具体的な手法		目標	実施主体						優先度	
		名称	内容	項目	内容		市民	事業者	研究機関	地域協議会	浜松市	静岡県		
人間活動に関すること	学習 佐鳴湖学習の推進 (佐鳴湖を環境活動・エコ活動の拠点にする)	水質に関する学習	新指標水質調査への参加呼びかけ				●			●		●		
			行政から市民へ調査機材の貸出し							●	●			
			移動環境教室(出前講座)の継続					●			●	●		
		学校での学習	小中学校での環境学習を活発化する(学校独自のプログラム)				●			●	●			
		学習の場の確保	佐鳴湖資料館、水族館の整備 管理棟の機能強化(博物館化)								●		◎	
	交流	交流活動の拡大	湖岸の交流活動	佐鳴湖ウォーク等の活性化				●				●		
				ヤングファミリーを呼ぶための仕組みづくりをする				●			●	●		
		交流の場づくり	交流の場の確保	市民協働で公園整備計画をつくる				●				●		
				野外ステージをつくる								●		
			飲食の場の確保	カフェ、レストラン、露店、バーベキュー場をつくる				●	●			●	●	
		コンセプト	健康づくりの場、憩いの場等「佐鳴湖公園」のコンセプトを統一する				●				●		◎	
		エコファーマーの活動の場を設ける	農産物の青空朝市の開催								●		◎	
	利用マナーの向上	佐鳴湖利用マナーの向上	トイレをきれいに使う				●							
			公園でのイベント主催者に佐鳴湖浄化を呼びかける				●			●	●			
			市民参加の「佐鳴湖景観計画」をつくる				●				●			
	憩い	遊び場の創出	ヘドロを固化してグラススキー場を造成する								●	●		
			遊び道具を設ける(キノコのトーテムなど)								●			
		憩いの場の創出	湖岸を再生し、憩いの場とする								●	●		
			ウォーキング、ジョギング、自転車それぞれの場を設ける								●		◎ 遊歩道	
	渡し船、遊覧船の導入							●						
ひそかな楽しみを一般化する	バードウォッチング(フクロウ)などを一般化する					●			●					

実施対象	想定される効果 (目的)	対策		具体的な手法		目標	実施主体						優先度		
		名称	内容	項目	内容		市民	事業者	研究機関	地域協議会	浜松市	静岡県			
人間活動に関すること	憩い	イメージアップ (各種 PR 活動)	せせらぎ水路の管理	市民協働によりせせらぎ水路を管理（浄化水で理想像をつくる）				●					●		
			湧水池の整備	佐鳴湖周辺にきれいな湧水池をつくりイメージアップを図る				●				●		◎	
			佐鳴湖への理解を高める	子どもから大人まで、実際に佐鳴湖に来てもらう				●			●				◎
				2年連続でワースト5を外れたことをPRする							●	●			
				佐鳴湖の良さ、楽しみ方を再発見し、発信する				●			●	●			
			イベントの開催	佐鳴湖浄化の啓発イベントを開催する								●			
				トライアスロン大会など、浄化が目に見えるようにPRする								●			
			ホームページの活用	佐鳴湖地域協議会等のホームページを活用する				●				●			
	イメージキャラクターの設定	ヤマトシジミをイメージキャラクターに起用する								●					
	安全性の向上	安全性の向上	佐鳴湖コーディネーターの設定	佐鳴湖を総合的に管理するコーディネーターを背ウ											
			歩道の安全性	自動車道に制限をする（西岸を自動車進入禁止にする）									●		
			防犯対策	防犯所等を設置する									●		
			ユニバーサルデザインの導入	ユニバーサルデザインにより多くの人が利用できるようにする。									●		
			エコファーマーの認定を推進する										●		
	生活	農業生産活動の推進	環境保全型農業	土壌分析・施肥等の農業活動の管理指導を行う									●	●	
浄化への努力が利益になる仕組みづくり（行政認証等）												●	●		
バス路線の整備				浜松駅、高塚駅からの直行路線					●			●			
アクセス性の向上		交通網の整備	LRTを計画する					●				●			
			都市計画道路の整備									●			

実施対象	想定される効果 (目的)	対策		具体的な手法		目標	実施主体						優先度				
		名称	内容	項目	内容		市民	事業者	研究機関	地域協議会	浜松市	静岡県					
歴史文化に関すること	歴史	佐鳴湖の歴史を知る	歴史学習の場の確保	佐鳴湖周辺の歴史を知る資料館の整備									●		◎		
				佐鳴湖の成り立ちを学習できる場の整備									●		◎		
	文化	文化の継承	郷土学習の場の確保	家族で行ける郷土学習の場の確保(資料館)										●			
		地域の個性の創出	エコ活動を地域の個性にする	佐鳴湖をエコ活動の拠点にする				●				●		●			
	景観	景観の形成	景観の保護	今ある緑を守る(→周辺環境に関すること)				●						●			
			眺望の確保	遊歩道から水辺を見やすくするため、雑木、生垣の間引きを行う				●						●			
			透明度(透視度)の向上	浄化対策の推進(→水質に関すること)				●	●	●	●	●	●				
		景観のPR	名勝地「佐鳴湖」のPR	佐鳴湖が市の指定文化財、名勝地であることをPRする											●		
			佐鳴湖の景観を再発見する機会を設ける	ポスターコンクールを継続して開催する				●							●		



実施対象	想定される効果 (目的)	対策		具体的な手法		目標	実施主体					優先度	
		名称	内容	項目	内容		市民	事業者	研究機関	地域協議会	浜松市		静岡県
その他			地域協働の活動を佐鳴湖でどう進めるか検討する。										
			佐鳴湖の価値を可視化し、具体的に する										
			総合的に佐鳴湖対策を進める組織 の立ち上げ										
			佐鳴湖に関する知識を関係者等で 共有する仕組みづくり										
			地域協議会の組織構成の見直しを 行う										
			ワーキンググループの位置づけを 明確にする。										